



受験を考えている方へ 先輩からのメッセージ

岩手医科大学附属病院 高度看護研修センター
修了した緩和ケア認定看護師より



岩手医科大学附属病院 高度看護研修センターの 3つのおすすめポイント！ 上村博子さん

受験を考えている方へ 岩手医科大学附属病院 高度看護研修センターのおすすめポイント

①緩和ケアを先駆けといえる有名な講師の先生方の授業！

感動のあまり涙することもしばしば…緩和ケアを目指して良かったと思える瞬間を味わえます。

②高度看護研修センターの先生方のフルサポート！

時に母のように、時に姉のように、少しだけ…鬼のように研修生を全力でサポートしてくれます。

③歩いて2分の寮！

研修センターまでの移動時間を心配することなく、勉強に専念できます。

少し歩けば昭和の香りがする喫茶店や居酒屋もありリフレッシュには最適です。



認定看護師を目指すと考えた時から、山ほどの不安が押し寄せてきました。「本当に自分にできるのだろうか」「そもそも入学することができるのだろうか」「自分の実力で長い研修についていけるのだろうか」などなど…不安だけが膨らむ毎日を過ごしました。

でも、一歩踏み出さなければ未知の世界は体験できません。たくさんの不安を胸に、一歩を踏み出してみませんか？

勇気をもって一歩踏み出したあなたを、研修センターの先生方は全力でサポートしてくれますよ。そして、一生の友と呼べる仲間に出会う事ができると思います。

人生を変える瞬間を岩手医科大学附属病院 高度看護研修センターで味わってみてください。

私が岩手の緩和ケア認定看護師教育課程を選んだのは・・・

瀬川百合子さん

私が岩手の緩和ケア認定看護師教育課程を選んだのは、**岩手山と自然に囲まれたところ**、**岩手の人は人情味があって温かい**と周りの人が進めてくれたからです。受験前日、試験場所を確認に行った時、守衛さんに「がんばりなよ」と声をかけてもらって不安な気持ちの私は、涙が出そうなくらいうれしかったのを覚えています。

岩手医科大学附属病院高度看護研修センターの講義室は、寮がすぐそばで、医大の図書館は24時まで使用可能、勉強には最適な環境です。寮費はアパートの半額で済み経済的に助かりました。専任の石井先生や長澤先生には親身に時に厳しく指導を受け、時にフレンドリーに話を聴いていただき、事務の米澤さんは生活全般から精神的なフォローまで大変お世話になりました。

講師の先生方は、今まで緩和の本の著者として名前だけ知っていた先生、自費で研修を受けたことのある著明な先生、学会などの講演で遠くから眺めていただけの先生方が目の前で授業をしてくださり、親しく話をさせていただき、贅沢さを味わいました。

生活環境としては、盛岡の中心地で飲み屋さんや飲食店がたくさんあるのに中津川の散歩コース、城跡公園、趣のある建物や商店、歴史的な建物もたくさんあります。こだわりのコーヒー屋さんもたくさんあり、課題に追われる日々の隙間時間に自分のお気に入りの場所や食べ物を探すのも楽しみの一つでした。

地域の人たちとの交流も研修が終わるころには、別れるのが辛いくらいに親しくなり、みんな本当に応援してくれました。卒業祝いだとごちそうしてくれた朝市のご夫婦や定食屋の奥さん、サービスしてくれた飲み屋のおじさん。卒業式の新聞を見て「いた。いた。卒業できたんだね」と自分の身内のように喜んでくれました。今回認定審査に合格できたのもこのような皆さんの応援に応えたい、という気持ちが原動力になった気がします。合格発表の夜には先生方やお世話になった方々の顔が見たくて盛岡に向かっていました。岩手山を見ると帰ってきたという気持ちになり、第二の故郷になりました。

緩和ケア認定看護師を目指す皆さん、目標達成のために
岩手医科大学附属病院高度看護研修センターで学んでみませんか。



岩手医科大学附属病院の高度看護研修センターで研修を受けたことが、本当に良かったと心から実感しています

横山直美さん

今、8ヶ月の研修を振り返ると、岩手医科大学附属病院高度看護研修センターで受けたことが本当によかったと心から実感しています。その理由は3つあります。

1つは、講師の充実ぶりで、全国を牽引されている講師の方がそろっていることです。その方々の講義(ロールプレイ、GW含む)を受けることができ、心が揺さぶられ、目からウロコ状態でたくさんのことを学ぶことができました。実習では、指導者との出会いも大きく、自己の目標が達成できるような環境を整えて下さり、自分らしく実習することができました。そして、入学当日から研修終了まで取り組んだポートフォリオを通して、日々の自分自身を見つめながら自分が目指す認定看護師像を明確にすることができました。

2つ目は、充実した学習環境です。図書館や教室は夜遅くまで使用でき、講義室でのインターネットも使用可能で、集中して学習することができました。

3つ目は、恵まれた住居環境です。病院を休職し自費での研修参加でしたので、経済的な不安もありましたが、寮を借りることができてとても助かりました。寮から研修センターの建物までは、徒歩1分ですので、時間を有効に使うことができました。また、寮でよかったことは、研修仲間たちと交流ができたことです。研修期間は、悩むことも多かったです。互いに励ましあい、支えられたことで頑張ることができました。特に印象に残っていることは、ケーススタディ発表当日、早朝までそれぞれの発表を聴きあい、納得のいくまで互いに意見交換して発表にのぞんだことです。これは、寮生活だからできたことで、今でも忘れられません。

そして何よりも、研修センターの先生方がアットホームで、納得のいくまで指導して下さり、安心して学習できたことがよかったです。事務の方々もいつも笑顔で声をかけて下さり、頑張ることができました。

現在、認定看護師としてスタートラインにたったばかりで不安で気持ちがめげそうなこともあります。この研修センターでの貴重な経験が頑張れる原動力となっています。



ぜひ一緒に、東北から緩和ケアを 盛り上げていきましょう！！ 高橋寛名さん

高度看護研修センターでは、とても有名な講師の方々、わかりやすい講義をしてくださるが魅力です。研修終了してもまた講義を受けたくなるくらいです。有名な先生とお知り合いになれるチャンスもあります。

岩手医科大学の先生方をはじめ、講師の先生方は常にモチベーションを上げてくれるので、向上心を持ちながら研修を続けることができます。同期の研修生、岩手医科大学の先生、講師の方々との出逢いは、一生の財産になります。

盛岡の中心地にあるので生活は困りません。盛岡駅、バスセンターも近いので定期的に地元に戻る人にも帰りやすい環境です。しかも盛岡の三大麺の有名店が近くにあるので研修以外にも楽しみがあります。

是非一緒に東北から緩和ケアを
盛り上げていきましょう！！！！



目の前にいる患者さんの苦痛を緩和したい、
その人らしく過ごせるように支援したいと長く考えており、
岩手医科大学附属病院の緩和ケア認定看護師教育課程を受講しました。

Kさん

私は、目の前にいる目の前にいる患者さんの苦痛を緩和したい、その人らしく過ごせるように支援したいと長く考えており、岩手医科大学附属病院の緩和ケア認定教育課程を受講しました。

他の認定校の受験で落ちたり、病院の事情で受けられない年もあり、今回駄目だったら認定は諦めようかとも考えていた際の合格だったので、本当にうれしかったです。

受講前は知らない講師の方も多かったのですが、緩和の分野では有名な講師の先生ばかりで貴重な講義が目白押しでした。(お金を出してもなかなか受けられません。)

実習場所は東北以外にもあり、選択の幅がありました。

研修学校の先生やサポートしている下さる事務の方も、とても優しく、研修の継続や課題を乗り越えられるように支えていただきました。自分が思ったよりも、研修中は乗り越える山が沢山あり、高度看護研修センターの暖かい支援は本当にありがたく、不可欠だったと思います。認定試験までの間も様々なサポートをいただきました。多分今後も、相談などなど助けて下さることと思います。

岩手医科大学附属病院 緩和ケア認定教育課程の
良かったところを色々あげてきましたが、何よりも同じ看護を
目指す仲間が得られたことは、何よりの財産だったと思います。

東北のこの地に研修センターで学べるのは無期限ではないと
思いますので、緩和ケアを深めたい方は
是非早い受講をおすすめします。



私は、亡くなられていく患者さんを目の前に自分の知識のなさに無力感を感じ、緩和ケア認定看護師を志しました。毎日の講義はとても充実しており、衝撃的で新鮮で、何より楽しく学ぶことができました。

高橋由香子さん

皆様こんにちは。2期生卒業の高橋です。

私は、亡くなられていく患者さんを目の前に自分の知識の無さに無力感を感じ、緩和ケア認定看護師を志しました。緩和ケアに関する知識や経験の浅い私にとって、毎日の講義内容はとても充実しており、衝撃的で新鮮で、何より楽しく学ぶことができました。

入学前は、「何かをしなければ」、「何かしてあげたい」という気持ちが強く、それが看護だと思っていました。緩和ケア病棟の実習で、模索しながらも「寄り添うということは何か」を体感できたこと、肩肘を張らずに等身大の自分で頑張れたことは、私の看護人生において、これからの自分にとってすごく意味のあることだったと思います。

研修期間の8か月間。最初は他の学校機関と比べ長いと感じましたが、6か月間では体得できないことや、気づけなかった自身の壁、それを乗り越えるだけの力を身につけるための意味のある期間だったと思います。

高度研修センターがある岩手医科大学附属病院には、歯科医療センターも併設されており、口腔ケアに関しての講義や実践も充実しています。

また、交通の便が非常に良く、看護師寮を使わせていただき、大変助かりました。

一人では乗り越えることは、本当に難しかったと思いますが、共に学び切磋琢磨できる友と巡り合えたことも私にとっては一生の財産だと思います。



志を同じくする仲間との熱いトークは、 最高に幸せな時間でした！

Aさん

私は「駄目で元々」と思って受験しました。

緩和ケア認定看護師の先輩もいない病院に所属していた為、どうすればよかったのか分からないまま症例を見てきました。そして“もっと勉強したい”という気持ちが芽生え、高度看護研修センターの2期生として学ぶことになりました。

研修生の同期には緩和ケア病棟で実践を積んできている仲間もいて、研修についていけるか不安でしたが、志を同じくする仲間との熱いトークは最高に幸せな時間でした。

看護師寮は最高に便利で、お昼を食べに帰ることもでき、なにより寮費が安いのが助かりました。また、勉強に煮詰まった時に散歩する川沿いコースや紺屋町の風情ある街並みは最高です。時にはちょっと離れて余市や朝市なんかも楽しかったです。

そして超有名な講師陣がそろっていて驚きます。これは絶対に他にはない最高の研修施設だと思います。また、話しやすい講師陣には何度も救ってもらえました。自信がない方、どの研修先にしようか検討中の方も是非受験を試してみてください。

辛いと感じる瞬間があるかも知れませんが、
きっと幸せだと感じる8カ月になると思います。



私は、毎日の濃厚な研修を受けていくうち、
自分が目指す緩和ケア認定看護師像が明確となり、
不安から自信につなげることができました
窪田智子さん

私は、県外から研修だったため、慣れない地での8ヶ月間は戸惑いと不安もありました。しかし、**緩和ケアについて毎日濃厚な研修を受けていくうち、自分が目指す緩和ケア認定看護師像が明確となり、不安から自信につなげることができました。**これも、熱心にご指導して下さった、高度看護研修センターの先生をはじめ、著名な先生方の貴重な講義を受けたからこそであり、そのおかげで認定審査も合格することができた実感しています。

この学びは、自施設での実践に活用できることが多いことを、現場に戻ってから実感し、あらためて貴重で贅沢な研修であったと感じています。

そして、8ヶ月間の研修を共にした研修生との出会いは、とても貴重です。私が今回の研修で出会った仲間は同じ目標を持つ者同士で、お互いに刺激し、人として成長し合える、「一生の宝」と思える仲間です。岩手医科大学附属病院の高度看護研修センターで研修することができ、本当に良かったと感じています。これから受験される方も、研修終了した時にきっと同じ思いを実感できると思います。

最後に、これから受験を考え、迷っている貴方、
岩手医科大学附属病院 高度看護研修センターの石井先生、
長澤先生の広い胸？に飛び込んでみて下さい！！
きっと、必ずあなたの目標としている緩和ケア認定看護師に導いてくれますよ。



辛いこともありますが、高度看護研修センターの皆さんと、
同じ目標をもつ仲間が必ず助けてくれます
高橋麻理子さん

私は、緩和ケアの知識を深め、正しい知識と技術で患者さんのケアに携わりたいと考え「緩和ケア認定看護師」を目指しました。

初めは不安しかありませんでしたが、同じ目標に向かう仲間とすぐに仲良くなり、8か月間みんなで支え合って、全員で一緒に目標だった緩和ケア認定看護師になることができました。

私は、緩和ケア認定看護師教育課程を受験を決めてから、緩和ケアの勉強を開始したため、他の研修生から遅れているのではないかと不安でした。しかし、講義が進んでいくうちに、緩和ケアに携わるなら知らない人がいないというほどの豪華な先生から講義を受け、講義中のグループワークのみならず、講義以外でも毎日緩和ケアについて語りあっていました。8か月が終了した頃には、緩和ケアの知識を得ただけではなく、人間的にも成長できたなと評価することができました。

岩手医科大学附属病院は盛岡の中心地にあり、きれいな寮も格安で借りることができてなにより、教室に近いことが魅力です。気分転換においしいものを食べに行く店も8か月では回りきれないくらいありますので、心のケアも困りません。

辛いこともたくさんありますが、高度看護研修センターのみなさんと同じ目標を持つ仲間が必ず助けてくれます。



緩和ケア認定看護師になれたのは、
高度看護研修センターの熱心な先生方、
同じ志を持つ仲間の存在が大きかったと思います。

佐藤富美さん

8か月の研修期間は、容易なことではありませんでした。しかし、**教育過程を無事に修了することができ、緩和ケア認定看護師になれたのは研修センターの熱心な先生方、同じ志を持つ仲間の存在が大きかったと思います。**高度看護研修センターは、緩和ケア領域で著明な先生方の講義を受けることができました。講義室では無線LANにより自分のパソコンでインターネットが使用できるようサポートしていただき、また、医大の図書館も利用できるので勉強する環境が整っています。

私は、県外からだったので、看護師寮を使用しました。講義室に近く、経済的にも助かりました。さらに盛岡は交通の便もよく週末は帰省していました。緩和ケア認定看護師を目指す方にとって高度看護研修センターでの研修は、有意義なものになると思います。



私は一般病棟での勤務経験しかないのですが、緩和ケア病棟に所属している者とも共に過ごすことで多くの刺激を受け、いつしかそこから学んでいたことの多さに気が付きました。

Yさん



「緩和ケア」と意識はしていなくても、多くの看護師は増え続けるがん患者やその家族に日々接し、ケアしています。私は、死にゆく患者を前に何もできないと悩み、会話すら続けられないことが多くありました。そんな中、盛岡に「緩和ケア認定看護師」の教育課程が誕生し、病院の応援もあって学びをスタートしました。

充実した講師陣とは聞いておりましたが、卒業後に参加した今年の緩和医療学会では、その凄さを再認識し、それぞれの会場で司会やパネリストをされている先生方の話を広い会場で聞きながら、この先生方の講義を身近に受ける機会に恵まれたのだと感謝いたしました。

緩和ケア病棟や在宅での実習では実際に患者を受け持たせていただくことで、患者のケアに参加するとともに、あらためて緩和ケアの対象としての家族を意識する機会になりました。寄り添うことって何なのか、見守ることって何なのか、今でも考え続ける日々です。

また、共に学ぶ仲間は年齢が異なるだけでなく、経験している診療科や所属も様々です。緩和ケア病棟に所属している者とも共に過ごすことで多くの刺激を受け、いつしかそこから学んでいたことの多さに気が付きました。志を同じくする仲間との出会いは大きな財産です。

石井先生、長澤先生には講義・実習・事例発表だけでなく、修了後の認定試験にむけた期間までも指導をしていただきました。何より、認定試験の全員合格を共に喜んでいただけたことが嬉しかったです。

資格を得、臨床に戻った今でも、何もできないと悩み、なんと声をかけたらいいいのかと迷う日々は続いています。でも、以前とは異なり「少しお話ししましょうか」と自分から声をかける機会が増えたように思います。迷ったときに、遠く離れていても相談できる仲間がいることも、大きな支えです。そんな毎日を積み重ね、緩和ケア認定看護師として成長していくことができると考えています。

私は岩手生まれですが、緑や川に囲まれ、おいしい食べ物、飲み物に恵まれた盛岡の地で8か月を過ごすことは、いろいろな意味でその後の人生に影響を与えてくれると思います。ぜひ、岩手医科大学附属病院高度看護研修センターへ入学していただきたいと思います。多くの後輩の誕生をお待ちしております。

高度看護研修センターでの経験は、今までの自分をゆっくり振り返る機会になり、自分自身の変化を感じることができます。チャンスは何度もある訳ではありません。ぜひ受講されることをお勧めします。

和賀初美さん

私が緩和ケア認定看護師を目指そうと考えたのは、ある人の言葉です。看護師になって10年もたとうとしていましたが、自分の看護というものに自信がなくなっていました。それは自分自身が患者となり、看護をうける側に立ったからです。今までの自分の看護師としての立ち振る舞いは本当に良かったのか、もっとできる事があったのではないか・・・そう感じながらも何の打開策も見つからぬままでした。そんなとき「あなたには経験はある。でもそれだけではダメなの。」という言葉投げかけられました。

病棟に繰り返し入院している患者さんが、徐々に治療の幅が狭まっていく際に、私ができることは何かと考えたときに緩和ケアについて学びたいと感じ、岩手医大高度看護研修センターへの研修を希望しました。

看護師は様々なジレンマを感じながら患者さんと接しています。研修センターでの学びを通して疑問が解決できたことや、他の看護師とも共有したいと感じる知識がたくさんありました。病棟に戻った私は、同僚に態度や姿勢が変化したと言われた時、とても嬉しく頑張れる！という気持ちになりました。

高度看護研修センターでの8か月は、今までの自分をゆっくり振り返る機会になり、自分自身の変化を感じることができます。チャンスは何度もある訳ではありません。ぜひ受講されることをお勧めします。



緩和ケア認定看護師教育課程を選んだ時の気持ち、 研修中、そして認定審査に合格した時の気持ち

橘寿江さん

緩和ケア認定看護師教育課程を選んだ時の気持ち

職場の上司に勧められたのがきっかけでしたが、自分自身も緩和ケアリンクナースとして病棟の緩和ケアの向上に取り組みながらも、どのような教育方法がよいのか知識不足を感じることも多く、これでいいのかと悩んでいたことや仕事についても自分が何をしたいのか、これからの自分はどうあるべきなのか看護師としての自分に悩んでいた時期だったので、自分を変えたいという思いがありました。

研修中の思い

研修中は、学会や著書などで見かける先生が直接講義して下さるといっても贅沢で、緩和ケアのみならず、自分を見つめ直す機会になり、とても充実していました。そのことでこれまでの疑問や悩みが解決できましたが、辛いと感じる時期がありました。そのとき先生に「成長痛なんだよ」と声をかけて頂き、この辛さは自分と向き合う辛さなのだとということが分かった時から、考え方に変化がうまれました。このことは臨床に復帰した今も実感する日々です。地元で研修を受けることができたことは、環境的に恵まれていると思った時期と、就学前の子供を育てながらの生活は辛いと感じる時期がありました。しかし、期間限定の貴重な時期を周りの協力を得ながら乗り越えることができ、また同じ境遇の仲間達と励ましながら歩めたことが一番の励みになりました。

認定審査に合格した時の気持ち

研修終了後も認定審査までの間、研修センターで勉強会をしたり情報を共有したり機会があるなどのサポート体制は、仕事に復帰し、試験勉強と両立していく上で心強かったです。合格したときは、感謝の気持ちでいっぱいでした。

研修終了後も、公開講座の案内や情報の配信があり、研修センターや仲間とのつながりを実感できる時間が続き、認定看護師1年生の自分としては頑張る源になっています。



岩手の地で緩和ケアを学ぶ勇気の一步を、 ぜひ踏み出してみてください！

Iさん

岩手医科大学附属病院高度看護研修センターとの出会いは、緩和医療学会でのチラシでした。そしてそのときは、まさか自分がこの研修センターで学ぶことになるとは思っていませんでした。

地元を離れて暮らしたことがない私にとっては、東北の地は遠く受験を迷いました。それでも上司の勧めもあり受験し、無事に合格をしました。しかし、東北の地での生活は心細く、初めは何度も帰りたいと思っていました。そんな私でしたが、仲間や先生方との充実した時間を過ごし8ヶ月後には岩手を離れることが辛いと思う位になりました。

研修中は新しいことを学ぶことももちろんでしたが、自分を見つめることが多かったのが一番の思い出です。

学びを深めるなかでは、自分自身の今までの看護を振り返ることも多く、できない自分を実感したり、また時には周りの仲間と比べて自分に落ち込んだりすることもありました。でも、その度に同じ研修生の仲間を支えられ、教員の先生方に優しくしていただき、なんとかありのままの自分を受け入れることが少しずつできてきたと思います。あの時間があったからこそ、今でも何かあれば相談したり、報告したりできる仲間や先生方との絆を得たように思います。

みなさんもきっと、受験をするまでは不安や勇気がいることと思います。しかし、研修を受講したならばきっと後悔はさせない豪華な講師陣と学習に集中できる環境、そして何でも相談でき優しく包み込んでくれる教員の方々と勉強も生活もサポートしてくれる事務の方がこの研修センターにはいます。そして、なんとも便利な自然のあふれる盛岡の街も待っています(車がなくても生活には困りませんでした)。

ぜひ、岩手の地で緩和ケアを学ぶ勇気の一步を踏み出してみてください。



一歩踏み出してみると、自分の可能性をもっと信じて
前進してみようという気持ちに変わりました。

稲船瑠子さん

岩手医科大学附属病院高度看護研修センターに通学した当初、「自分が緩和ケア認定看護師を目指してよかったのか？」「自分には相応しくないのではないか」などの不安がありました。そして私は千葉から岩手に移り住み、慣れない場所で暮らすという不安も抱え、つらく苦しい時間だったのを覚えています。

しかし、講義やグループワークなどで研修生との交流が深まってくると、心温かい仲間たちの緩和ケアに対する思いに触れ、語り合ううちに不安はなくなっていました。そして今ではここで出会った仲間やいつも傍で優しく支えてくださった先生方は、私にとって一生の宝物です。人との出会いや、繋がりにこんなにも感謝することは今までありませんでした。

自分自身としっかり向き合う8ヵ月間。これは怖くもあり、新たな一歩を踏み出すという勇気が必要です。しかし一歩踏み出してみると、自分の可能性をもっと信じて前進してみようという気持ちに変わりました。

この8ヵ月間に無駄なんてありません！

みなさんも、一歩踏み出してみませんか？

